

住んでいる地域への理解深めて 霧島ジオパーク講演会で識者語る

1月31日、霧島ジオパーク講演会が文化会館で開催されました。講師の恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会ジオパーク専門員の町澄秋さんが「ジオパークと地域振興」をテーマに講演。市内外から訪れた約80人の来場者は、恐竜化石などが多数発見されている勝山ジオパークの実際の事例などを通してジオパークへの理解を深めました。



町さんは「ジオパークとそこで暮らす人たちの普段の生活をつなげることで地域の理解が進み、地域振興につながる活動が生まれてくる」と話しました

地域の先輩に学ぶ 小林小でキャリア教育

1月24日、小林小学校(吉井秀一校長)で「教えて、せんぱい!」と題したキャリア教育交流会が行われました。講師を務めたのは、地域で働く保育士や自衛隊員など。参加した同校5年生86人は、講師が話す仕事の内容や、やりがいなどに耳を傾けていました。



しもおきひでと 下沖秀人さんが県公民館連合会功労者表彰

2月3日、南西四区自治公民館長の下沖秀人さんが県公民館連合会功労者表彰を受賞しました。下沖さんは公民館長を9年以上務め、子どもたちの郷土愛の醸成や地域住民のふれあい創出などを目的にさまざまな公民館活動・地域活動を続けています。



「野球しようぜ!」 大谷グローブが市内小学校に届く

米大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手が全国の小学校に3つずつ贈ったグローブが、1月中に市内の小学校全12校に届けられました。東方小学校(根井清校長)では、1月24日にグローブ贈呈式を開催。同校の全校児童に大谷選手からのメッセージの紹介や、これからのグローブの使い方の確認などが行われました。



グローブを受け取った東方小6年の甲斐綾己さん(写真右)は「届くのを楽しみにしていました。みんなで大切に使いたいです」と感謝を述べました

西諸3市町で連携し観光推進 北きりしま広域観光推進協議会設立

1月30日、小林市・えびの市・高原町の行政・観光関係者などが集まり「北きりしま広域観光推進協議会」が設立されました。市町の垣根を越え、西諸全体での観光推進を目指すもの。今後、各地の観光資源や施設などを活かしたツアーの開発、農家民泊やスポーツ大会・合宿などの誘致を進め、インバウンドを含めた観光客増加を目指します。



会長に就任した小林まちづくり株式会社木村洋文統括部長は「豊かな自然・人・食という魅力を活かし、世界に誇れる地域にしたい」と話していました

46 年間地域の交通安全に貢献 横山章司さんが県交通安全功労者表彰

1月24日、長年にわたり交通安全の普及・啓発に貢献してきたとして、横山章司さんが交通安全功労者県知事表彰を受賞しました。横山さんは、昭和52年から46年間にわたり小林交通安全協会須木支部の会員として活動。平成22年から令和5年までは同協会の須木支部長や理事も務め、交通安全意識の高揚に尽力されてきました。



横山さんは「自分にできる範囲で活動を続けてきた。受賞は関係者や家族の支援や協力があったのもので、皆さんに感謝したい」と話していました

小林こすもすライオンズクラブが 「こども応援基金」に寄付

2月14日、小林こすもすライオンズクラブ（吉永則男会長）がこばやし秋まつりでのチャリティーバザー活動の益金を市へ寄付しました。寄付金は、将来を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりを推進する「小林市こども応援基金」に積み立て、子どもの貧困対策事業や少子化対策事業、子ども・子育て支援事業などに活用されます。



小林こすもすライオンズクラブから本市へは、令和3年度から毎年寄付をいただいており、今回が3回目となります

子どもたちが抱える諸問題を考える シンポジウムを開催

2月4日、貧困問題や不登校など子どもたちが抱える諸問題について考えるシンポジウムが、小林ロータリークラブ主催で開催されました。NPO法人カタリバの今村久美代表理事の基調講演や子育て支援やキャリア教育に取り組む4つの団体が活動を報告。貧困や障がいによって不登校や行き渋りとなった事例などを紹介しました。



基調講演では、能登半島地震の被災地で行われている子どもの居場所づくりの取り組みなども紹介されました

住みよい福祉のまちづくり目指し 4年ぶりに福祉推進大会を開催

2月9日、こばやし福祉推進大会が文化会館で開催されました。金婚者・米寿をお祝いしたほか、地域福祉に功労のあった個人16人と4団体を表彰。金婚夫婦を代表し園田壽寛さん・優子さん夫妻が「大きな節目を迎えられたのは、家族や皆さまのおかげ。感謝の気持ちを忘れず、2人で手を取り合って歩んでいきたい」と謝辞を述べました。



式典では、金婚を迎えた79組の夫婦と友愛クラブ会員の米寿92人を、西小林保育園の園児や細野中学校の吹奏楽部などが歌や演奏でお祝いました

サンキョーミート株式会社 小中学校の給食用に豚肉を寄贈

市内に食肉加工場をもつサンキョーミート株式会社（古賀満代表取締役社長）が学校給食用に豚肉280キログラムを寄贈しました。1月23日には市役所で寄贈式が行われ、古賀社長は「未来を担う子どもたちにおいしい肉を食べてほしい」とあいさつ。提供された豚肉は2月6日に市内小・中学校21校の学校給食で提供されました。



同社の地域貢献活動の一環で行われている豚肉の無償提供。昨年度は市内の子ども食堂や市内学校給食用として豚肉の提供をいただきました

ライオンズクラブ新入生用カバー寄贈

2月6日、小林ライオンズクラブ（嶋田賀久会長）が4月から市内小学校に通う新入生用のランドセルカバー約400枚を寄贈しました。嶋田会長は「ドライバーの皆さんには、このカバーを見かけたら特に安全運転を心がけていただきたい」と話しました。



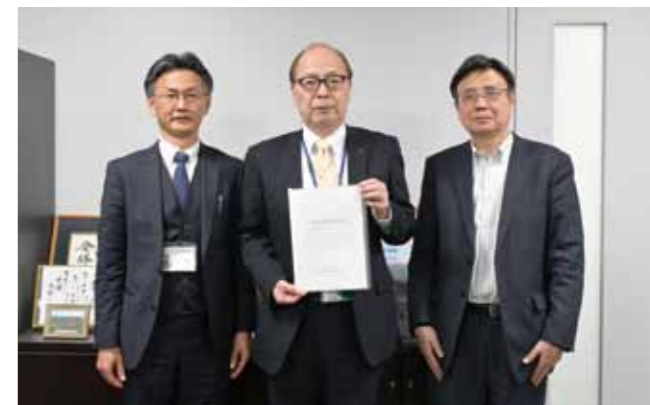
自動車整備振興会が下敷きなど寄贈

2月8日、県自動車整備振興会小林支部（上村一郎支部長）が交通ルール下敷きと防犯定規、各350個を寄贈しました。「新1年生が登下校時に交通事故などに遭わないよう、啓発活動に活用してほしい」と話す上村支部長。寄贈は今年で16回目になります。



老朽化進む学校施設について 西小林地区の検討会議が意見書提出

2月1日、「西小林地区学校施設整備検討会議」（会長：熊野稔宮崎大教授）が教育委員会に意見書を提出しました。同団体は、老朽化が進む西小林地区の小・中学校3校の今後の整備の在り方を検討する会議として令和4年度に発足。児童生徒にとって望ましい教育環境の在り方について2年間に渡り検討を重ねてきました。



写真左：熊野会長、写真右：矢野副会長（西小林中学校長）。同団体は、西小林地区内の学校関係者、保護者の代表、地域の代表などで構成されています

読書好きの児童を育てる活動を続ける 「くすの木文庫」が県教育長表彰

2月2日、小林小学校の保護者を中心に活動する「くすの木文庫」が、「地域学校協働活動」推進に係る県教育長表彰を受賞しました。同団体は「子どもたちに読書に親しんでほしい」と平成5年に発足。朝や昼休みの読み聞かせ、学校のクラブ活動への参加、お話会の開催など、長年にわたり読書好きな子どもを育てる活動を続けています。



地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるとともに地域を創生する活動であり、他の模範となる活動であると評価され、今回の受賞に至りました